

宮古諸島のトンボ相

小浜 継雄（沖縄県宜野湾市）・砂川 博秋（沖縄県宮古島市）

はじめに

宮古諸島は、沖縄島、西表島、石垣島に次ぐ、沖縄県で4番目に面積の大きな宮古島をはじめとし、池間島、大神島、来間島、伊良部島、下地島、多良間島および水納島の8島で構成される。ほとんどの島が琉球石灰岩からなる、平坦な地形で、山地森林がなく、河川が発達していない。

宮古諸島のトンボ類について、まとまった報告として、東（1975）、小浜（1976）、小浜・砂川（1981）、小浜（1994）、杉村・岡崎（2001）、焼田・喜多（2008）、青柳（2011；2018）、小浜・佐々木（2013）、小浜・砂川（2014）、小浜・小浜（2020）があり、その他に松井（1962）、上田（1964）、朝比奈（1964）、山本（1975）、Kohama（1978）、松木（1979）、小浜（1983；1986）、岸（1986）、杉村・岡崎（2002）、砂川・小浜（2003；2006）、小浜・仲地（2016；2017；2019）、小浜・砂川（2017；2018；2019）などの報告があり、これまでに4科31種のトンボが知られる。

筆者らは、2012年から2017年にかけて、宮古諸島においてトンボ相の調査を行い、4科25種のトンボを採集・目撃確認している。そして、今回の調査で確認できなかった5種、その後確認された1種を含め、これまでに知られる4科31種について、宮古諸島のトンボ相としてまとめたので報告する。なお、一部の採集データについては既に報告している（小浜・砂川、2014；2016；小浜・仲地、2016）。

発表に先立ち、宮古島と池間島におけるトンボについての貴重な情報を提供いただいた、仲地邦博氏に厚くお礼を申し上げます。また、採集標本を提供いただいた比嘉正一氏にもお礼を申し上げます。宮古諸島における昆虫相調査において、種々便宜を図っていただいた宮古島市史編さん室の方々にお礼を申し上げます。

宮古諸島のトンボ目録

2012年から2017年にかけて、宮古諸島において採集・目撃したトンボ25種と、これまでに確認されたトンボ種を含め、2019年12月現在、宮古諸島から知られる4科31種について、宮古諸島のトンボ目録としてまとめた。

採集標本データ、目撃データとも、島別に個体数、採集日、採集地名、採集者の順で示した。採集者名は小浜継雄を（K）、砂川博秋を（S）と略記した。池間島や来間島などの小島

嶼については島名のみを記述した。目撃記録については、観察者名は省いた。今回の調査で確認できなかった種については文献を引用した。

I. イトトンボ科 Coenagrionidae

1. コフキヒメイトトンボ *Agriocnemis femina oryzae* Lieftinck, 1962

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♂, 22. IV. 2015. 上地, (K); 2♂, 9. X. 2016. 福山, (K).

[目撃データ]

宮古島：2exs. 22. IV. 2015. 上地; 3exs. 9. X. 2016. 福山.

宮古諸島からは、宮古島のみから記録されている（朝比奈、1964；上田、1964；東、1975；小浜、1976；松木、1979；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）。宮古島では周年成虫が見られる（小浜・小浜、2020）。

2. ヒメイトトンボ *Agriocnemis pygmaea* (Rambur, 1842)

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 24. IV. 2015. 添道, (K).

池間島：1♂1♀, 29. VII. 2014. (K); 1♀, 29. VII. 2014. (S); 2♀, 30. VIII. 2014. (K); 1♂, 24. X. 2014. (K); 1♂, 20. V. 2016. (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 24. IV. 2015. 添道.

宮古諸島においては、宮古島（小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；青柳、2011；小浜・佐々木、2013）および伊良部島（小浜、1994；2016b）から記録されている。

本種は海岸近くの多少とも潮の影響があると思われる湿地（たとえば、伊是名島や南大東島、宮古島、池間島、伊良部島など）で見られるようである（小浜、2016a）。環境省のレッドデータブック2014の準絶滅危惧種（環境省自然環境野生生物課希少種保全推進室、2015）。

3. リュウキュウベニイトトンボ *Ceriagrion auranticum ryukyuanum* Asahina, 1967

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 30. VII. 2014. 宮原, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (S); 1♂1♀, 24. IX. 2014. いこいの森, (K); 1♂, 24. IX. 2014. いこいの森, (S); 1♂1♀, 23. X. 2014. いこいの森, (K); 1♂, 19. III. 2015. 新城, (K); 1♂, 23. IV. 2015. 保良, (K).

池間島：2♀, 30. VIII. 2014. (K); 1♀, 24. X. 2014. (K).

多良間島：1♀, 18. VII. 2014. 仲筋, (K).

[目撃データ]

宮古島：4exs. 26. IV. 2013. 大野山林; 2exs. 5. VII. 2013. 大野山林; 1ex. 30. VII. 2014. 宮原; 2exs. 24. IX. 2014. いこいの森; 1ex. 19. III. 2015. 新城; 3exs. 19. III. 2015. 保良; 2exs. 22. IV. 2015. 上地; 1ex. 22. IV. 2015. 新城; 8exs. 23. IV. 2015. 保良; 2exs. 24. IV. 2015. 添道; 1ex. 12. V. 2015. いこいの森; 5exs. 19. V. 2016. 大野山林; 3exs. 19. V. 2016. 添道; 13exs. 9. X. 2016. 野原; 2exs. 9. X. 2016. 宮原; 4exs. 9. X. 2016. 福山.

池間島：2exs. 29. VII. 2014; 6exs. 20. V. 2016.

宮古諸島においては、宮古島（東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；青柳、2011；小浜・佐々木、2013）、伊良部島（小浜、2016b）、多良間島（小浜、1976）から記録されている。

4. アジアイトトンボ *Ischnura asiatica* Brauer, 1865

今回の調査では確認されていない。宮古諸島においては、宮古島（小浜、1986）、池間島（焼田・喜多、2008）、伊良部島（小浜、1994）、下地島（小浜、1994）で記録されているが、いずれの島でも確認されたのは一度ずつで、いずれも9月下旬から10月上旬に記録されている。1987年9月下旬には伊良部島と下地島で多数の個体が確認されている（小浜、1994）。

本種は沖縄地方では秋の飛来種で、主に秋季に確認され、秋季以外の記録は少ない（渡辺ら、2007；長田・小濱、2011；小浜、2015）。野外において交尾・産卵が観察されていること、そして沖縄島では3月に羽化直後の成虫が確認されている（小浜、2019）ことから、飛来個体の一部は繁殖していると考えられる。

5. アオモンイトトンボ *Ischnura senegalensis* (Rambur, 1842)

[採集標本データ]

宮古島：1♀, 29. VIII. 2014. 上地, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♀, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S); 2♂, 23. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 24. IX. 2014. 洲鎌, (K); 1♀, 23. X. 2014. いこいの森, (K); 1♂1♀, 23. X. 2014. 崎田川, (K); 1♂4♀, 23. X. 2014. 新城, (K); 1♂1♀, 17. III. 2015. いこいの森, (K); 1♂1♀, 19. V. 2016. 添道, (K); 1♀(雄と同色型), 21. V. 2016. 崎田川, (K).

池間島：2♂, 10. XI. 2012. (K); 3♂3♀, 29. VII. 2014. (K); 1♀, 12. VI. 2014. (K).

来間島：1♀, 21. V. 2016. (K).

伊良部島：1♂, 27. VII. 2014. 佐和田, (K); 1♀, 4. IX., 2015. 佐和田, (K); 1♂, 5. IX. 2015. 佐和田, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K).

多良間島：1♂1♀, 7. VI. 2013. 西赤地原, (K); 1♀, 16. VII. 2014. 長嶺, (K); 1♂1♀, 16. VII. 2014. 長嶺, (S).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 10. XI. 2012. 大野山林; 20exs. 11. XI. 2012. 比嘉; 1ex. 26. IV. 2013. 大野山林; 2exs. 18. III. 2015. 崎田川; 3exs. 19. III. 2015. 新城; 11exs. 19. III. 2015. 保良; 11exs. 22. IV. 2015. 上地; 5exs. 22. IV. 2015. 新城; 20exs. 23. IV. 2015. 保良; 1ex. 24. IV. 2015. 添道; 8exs. 12. V. 2015. いこいの森; 1ex. 14. V. 2015. 与那覇; 2exs. 19. V. 2016. 添道; 8exs. 21. V. 2016. 崎田川; 3exs. 9. X. 2016. 野原.

伊良部島：2exs. 13. VII. 2016.

宮古諸島では、宮古島（上田、1964；東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；小浜・佐々木、2013）、来間島（小浜、1976；小浜・小浜、2020）、伊良部島（小浜、1994）、下地島（小浜、1994）、多良間島（小浜、1976；青柳、2018）から記録されており、宮古諸島でもっとも普通に見られるイトトンボである。宮古島では成虫が周年見られる（小浜・小浜、2020）。

6. ムスジイトトンボ *Paracercion melanotum* (Selys, 1876)

[採集標本データ]

宮古島：2♂1♀, 19. III. 2015. 保良, (K); 1♂, 23. IV. 2015. 保良, (S).

池間島：1♂, 12. VI. 2014. (K).

多良間島：1♂1♀, 7. VI. 2013. 西赤地原, (K).

[目撃データ]

宮古島：20exs. 11. XI. 2012. 比嘉; 5exs. 19. III. 2015. 保良.

池間島：1ex. 20. V. 2016.

伊良部島：1ex. 4. IX. 2015. 佐和田.

伊良部島新記録。伊良部島ではコンクリート製の小さな溜め池で1♂を確認した。

宮古諸島においては、宮古島（小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；青柳、2011；小浜・佐々木、2013）、多良間島（杉村・岡崎、2002；青柳、2018）から記録されていた。成虫は周年見られ、冬季の1～2月でも個体数が多い。また、冬季でも晴れて暖かい日には交尾・産卵行動が観察される（小浜・小浜、2020）。

II. ヤンマ科 Aeshnidae

7. トビイロヤンマ *Anaciaeschna jaspidea* (Burmeister, 1839)

[目撃データ]

池間島：1ex. 28. VII. 2014; 1ex. 29. VII. 2014; 1ex. 30. VIII. 2014.

今回の調査において、池間島で目撃・確認されたが、個体数はかなり少なかった。池間島

以外の島では見ていない。

宮古諸島においては、宮古島（小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜・佐々木、2013；小浜・小浜、2020）、伊良部島（小浜、1994）、下地島（小浜、1994）から記録されている。

1970年代から1980年代前半には、宮古島の中添道や大浦周辺、池間島の集落近く、また伊良部島の平江に本種の好適な生息地があったが、1980年代後半にはそのほとんどが農地造成により消失した（小浜・小浜、2020）。生息地が減少したため、本種の個体数は激減したと思われる。

沖縄県版のレッドデータブックのカテゴリーは、「絶滅危惧IB類」である（焼田、2017）。

8. オオギンヤンマ *Anax guttatus* (Burmeister, 1839)

[採集標本データ]

下地島：1♀, 23. VIII. 2016. (S).

下地島新記録。

宮古諸島においては、宮古島（Oguma, 1926；小浜、1976；松木、1979；小浜・砂川、1981）、池間島（焼田・喜多、2008；青柳、2011）、多良間島（小浜・小浜、2020）から記録があった。宮古諸島に定着していないと考えられる。海洋飛来種で、陸地から遠く離れた洋上でも捕獲されている（橋本・朝比奈、1969；朝比奈・鶴岡、1970）。本種は移動性が強く、1998年の秋には全国各地に多くの個体が飛来した（枝、2002）。

9. リュウキュウギンヤンマ *Anax panybeus* Hagen, 1867

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 5. VII. 2013. 大野山林, (K); 1♀, 30. VII. 2014. 崎田川, (K); 1♂, 19. V. 2016. 大野山林, (K).

伊良部島：1♂, 13. VII. 2016. 牧山, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 9. III. 2012. 大野山林; 1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 30. VIII. 2014. 福山; 1ex. 12. V. 2015. いこいの森; 3exs. 19. V. 2016. 大野山林; 1ex. 19. V. 2016. 添道.

伊良部島：1ex. 27. VII. 2014. 佐和田; 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田; 2exs. 13. VII. 2016. 牧山. 伊良部島新記録。

宮古諸島においては、宮古島（小浜、1983；小浜・小浜、2020）と下地島（小浜、1994）から記録があった。宮古島では周年成虫が見られ、冬季でも暖かい日には産卵行動などが観察されている（小浜・小浜、2020）。

10. ギンヤンマ *Anax parthenope julius* Brauer, 1865

[採集標本データ]

宮古島：1♀, 13. X. 2013. 福山, (S); 1♂, 14. IX. 2014. 洲鎌, (S).

池間島：1♀, 29. VII. 2014. (K).

伊良部島：1♂, 5. IX. 2015. 佐和田, (K).

多良間島：1♂, 18. VII. 2014. 赤地原, (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 24. IX. 2014. いこいの森; 1ex. 23. X. 2014. いこいの森; 1ex. 12. VII. 2016. 大野山林.

池間島：1ex. 28. VII. 2014.

宮古諸島においては、宮古島（東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；小浜・佐々木、2013；小浜・小浜、2020）、伊良部島（小浜、1994）、多良間島（小浜、1976；杉村・岡崎、2001）から記録がある。

11. リュウキュウカトリヤンマ *Gynacantha ryukyuensis* Asahina, 1962

今回の調査では得られていない。

宮古諸島においては、宮古島（小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）のみから記録されている。1979年には中添道にある林の中の湿地に多産した（小浜・砂川、1981）が、その産地は畑地造成で消滅した。1983年には大浦でも確認されているが、その産地も畑地造成で消滅した（小浜・小浜、2020）。

III. サナエトンボ科 Gomphidae

12. タイワンウチワヤンマ *Ictinogomphus pertinax* (Selys, 1854)

[採集標本データ]

宮古島：1♀, 5. VII. 2013. 更竹, (K); 1♂, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♀, 12. V. 2015. いこいの森, (K); 1♂1♀, 14. V. 2015. 与那覇, (K).

池間島：1♂3♀, 29. VII. 2014. (K).

伊良部島：1♂, 27. VII. 2014. 佐和田, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 30. VII. 2014. 崎田川; 1ex. 29. VIII. 2014. 上地; 1ex. 31. VIII. 2014. 福山; 1ex. 24. IX. 2014. いこいの森; 1ex. 12. V. 2015. いこいの森; 3exs. 14. V. 2015. 与那覇; 1ex. 15. V. 2015. 上比屋; 1ex. 22. V. 2016. いこいの森.

池間島：4exs. 20. V. 2016.

伊良部島 : 3exs. 13. VII. 2016.

宮古諸島においては、宮古島（松井、1962 ; 東、1975 ; 小浜、1976）、池間島（小浜、1976 ; 小浜・佐々木、2013）、伊良部島（小浜、2016b）、多良間島（青柳、2018）から記録がある。

IV. トンボ科 Libellulidae

13. コシブトトンボ *Acisoma panorpoides panorpoides* Rambur, 1842

[採集標本データ]

宮古島 : 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♂, 14. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 24. IX. 2014. いこいの森, (K).

池間島 : 1♂2♀, 20. V. 2016. (K).

[目撃データ]

宮古島 : 1ex. 26. IV. 2013. 大野山林; 1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 30. VIII. 2014. 福山; 1ex. 24. IX. 2014. いこいの森; 3exs. 24. IV. 2015. 保良; 2exs. 12. V. 2015. いこいの森; 4exs. 9. X. 2016. 福山.

池間島 : 6exs. 20. V. 2016; 1ex. 9. X. 2016.

宮古諸島からは、宮古島（小浜、1976 ; 小浜・砂川、1981 ; 小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976 ; 小浜・佐々木、2013）、伊良部島（小浜、2016b）から記録がある。

14. アオビタイトンボ *Brachydiplax chalybea flavovittata* Ris, 1911

[採集標本データ]

宮古島 : 1♂, 24. IX. 2014. いこいの森, (K); 2♂, 24. IX. 2014. いこいの森, (S).

池間島 : 3♂1♀, 29. VII. 2014. (K); 1♂, 29. VII. 2014. (S); 2♂, 30. VIII. 2014. (K); 1♂, 20. V. 2016. (K).

伊良部島 : 1♀, 28. VII. 2014. 佐和田, (K).

[目撃データ]

宮古島 : 4exs. 24. IX. 2014. いこいの森; 4exs. 12. V. 2015. いこいの森.

池間島 : 1ex. 10. XI. 2012; 3exs. 28. VII. 2014; 7exs. 20. V. 2016.

伊良部島 : 1ex. 5. IX. 2015. 佐和田.

伊良部島新記録。ただし、伊良部島の採集データについては、伊良部島新記録として小浜・砂川（2016）が報告した。

宮古諸島においては、1986年に初めて確認された（小浜、1986）。その後、宮古諸島に定着しているようである。宮古島（小浜、1986 ; 小浜・小浜、2020）と池間島（焼田・喜多、

2008 ; 小浜・佐々木、2013) から記録されていた。

15. ヒメキトンボ *Brachythemis contaminata* (Fabricius, 1793)

[採集標本データ]

宮古島 : 1♂, 22. IV. 2015. 新城, (K); 1♂1♀, 22. IV. 2015. 上地, (S); 1♂, 12. V. 2015. いこいの森, (K).

池間島 : 2♀, 10. XI. 2012. (K); 2♂, 12. VI. 2014. (K); 2♂, 29. VII. 2014. (K); 1♂1♀, 20. V. 2016. (K).

伊良部島 : 1♂, 4. IX. 2015. 佐和田, (K).

[目撃データ]

宮古島 : 2exs. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 30. VII. 2014. 崎田川; 1ex. 29. VIII. 2014. 上地; 1ex. 24. IX. 2014. いこいの森; 3exs. 23. IV. 2015. 保良; 1ex. 24. IV. 2015. 保良.

池間島 : 2exs. 10. XI. 2012; 3exs. 28. VII. 2014; 12exs. 20. V. 2016.

伊良部島 : 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田.

伊良部島の採集データについては、伊良部島新記録として、小浜・砂川 (2016) が報告している。

宮古諸島からは、宮古島と池間島から記録されていた (砂川・小浜、2003)。宮古諸島においては2003年に宮古島と池間島から初めて記録され、2015年には伊良部島でも確認されており、本種は宮古諸島で徐々に分布域を広げているようである。

16. ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia servilia* (Drury, 1770)

[採集標本データ]

宮古島 : 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (S); 1♂, 14. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂1♀, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S).

伊良部島 : 1♀, 27. VII. 2014. 佐和田, (K); 1♀, 5. IX., 2015. 佐和田, (K).

多良間島 : 1♀, 10. V. 2013. 仲筋, (K); 1♂, 16. VII. 2014. 長嶺, (K).

[目撃データ]

宮古島 : 1ex. 9. III. 2013. 大野山林; 3exs. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 30. VII. 2014. 福山; 3exs. 30. VII. 2014. 崎田川; 1ex. 30. VII. 2014. 宮原; 9exs. 29. VIII. 2014. 上地; 3exs. 24. IX. 2014. いこいの森; 2exs. 25. IX. 2014. 福山; 2exs. 23. X. 2014. いこいの森; 1ex. 18. III. 2015. 崎田川; 1ex. 19. III. 2015. 保良; 1ex. 22. IV. 2015. 上地; 4exs. 23. IV. 2015. 保良; 5exs. 24. IV. 2015. 添道; 1ex. 12. V. 2015. 加治道; 1ex. 12. V. 2015. いこいの森; 3exs. 14. V. 2015. 与那覇; 3exs. 21. V. 2016. 崎田川; 2exs. 12. VII. 2016. 大野山林; 1ex. 8. X. 2016. 高腰城跡; 5exs. 9. X. 2016. 野原; 1ex. 9. X. 2016. 宮原; 7exs. 9. X. 2016. 添道;

3exs. 9. X. 2016. 福山.

池間島 : 2exs. 10. XI. 2012; 5exs. 28. VII. 2014; 2exs. 20. V. 2016.

伊良部島 : 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田.

宮古諸島においては、宮古島(松井、1962; 東、1975; 小浜、1976; 小浜・砂川、1981; 小浜・小浜、2020)、池間島(小浜、1976; 小浜・佐々木、2013; 小浜・小浜、2020)、来間島(小浜、1976)、伊良部島(小浜、1994; 小浜、2016b)、多良間島(小浜、1976)から記録がある。宮古諸島で最もよく見られるトンボのひとつで、宮古島では成虫が周年見られる(小浜・小浜、2020)。

17. ヒメトンボ *Diplacodes trivialis* (Rambur, 1842)

[採集標本データ]

宮古島 : 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (S); 1♂, 14. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 24. IX. 2014. 嘉手苺, (K); 1♂, 23. X. 2014. 上地, (K); 1♀, 14. V. 2015. 与那覇, (K).

池間島 : 1♂, 10. XI. 2012. (K); 1♂, 28. VII. 2014. (K); 1♂, 20. V. 2016. (K).

伊良部島 : 1♀, 27. VII. 2014. 佐和田, (S); 1♀, 28. VII. 2014. 佐和田, (K); 2♀, 28. VII. 2014. 佐和田, (S); 2♀, 5. IX., 2015. 佐和田, (K); 2♀, 13. VII. 2016. 佐和田, (S).

多良間島 : 1♂, 16. VII. 2014. 長嶺, (K); 1♂1♀, 16. VII. 2014. 長嶺, (S).

[目撃データ]

宮古島 : 1ex. 9. III. 2013. 大野山林; 2exs. 26. IV. 2013. 大野山林; 1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 30. VII. 2014. 福山; 1ex. 30. VII. 2014. 宮原; 1ex. 24. IX. 2014. 嘉手苺; 2exs. 25. IX. 2014. 添道; 1ex. 25. IX. 2014. 福山; 1ex. 25. IX. 2014. 真謝; 1ex. 22. IV. 2015. 上地; 1ex. 23. IV. 2015. 保良; 8exs. 24. IV. 2015. 添道; 2exs. 12. V. 2015. いこいの森; 3exs. 14. V. 2015. 与那覇; 1ex. 19. V. 2016. 添道; 5exs. 12. VII. 2016. 大野山林; 1ex. 8. X. 2016. 高腰城跡; 3exs. 9. X. 2016. 野原; 3exs. 9. X. 2016. 福山.

多良間島新記録。

宮古諸島においては、宮古島(朝比奈、1964; 上田、1964; 東、1975; 小浜、1976; 小浜・砂川、1981; 小浜・小浜、2020)、池間島(小浜、1976; 小浜・佐々木、2013)、来間島(小浜、1976)および伊良部島(小浜、1994; 2016b)から記録されていた。宮古島では成虫が周年見られる(小浜・小浜、2020)。

18. オオハラビロトンボ *Lyriothemis elegantissima* Selys, 1883

宮古島で2019年4月に初めて確認された(小浜・仲地、2019)。県内では沖縄諸島、八重山諸島、大東諸島に分布し、宮古諸島からは知られていなかった。本種は、樹林に囲まれた

池・湿地に生息する。見つかった場所は、宮古島で最も面積の大きな大野山林であり、この森の中に本種が繁殖できる池・湿地が存在する可能性がある。

また、2017年7月13日に宮古島市内でオオハラビロトンボの雄3頭、雌2頭を確認し、交尾・産卵も観察されたとの記事が、2017年7月14日の宮古毎日新聞にカラー写真付きで掲載されていることから、本種が宮古島で発生している可能性がある。

19. ウミアカトンボ *Macrodiplax cora* (Brauer, 1867)

[採集標本データ]

宮古島：3♂2♀, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 17. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 24. IX. 2014. 洲鎌, (K); 1♂, 19. XI. 2014. 洲鎌, (K); 1♂, 19. XI. 2014. 洲鎌, (S).

伊良部島：1♂1♀, 6. VII. 2013. 佐和田, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K).

多良間島：2♂, 7. VI. 2013. 西赤地原, (K); 1♀, 17. VII. 2014. 多良間空港近く, (K).

水納島：1♂, 9. VI. 2013. (K).

[目撃データ]

宮古島：2exs. 23. IV. 2015. 保良.

池間島：4exs. 20. V. 2016.

伊良部島：5exs. 27. VII. 2014. 白鳥岬; 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田.

多良間島：5exs. 16. VII. 2013, 長嶺; 10exs. 18. VII. 2013, 赤地原.

水納島の採集データについては、水納島新記録として既に報告している(小浜・砂川、2014)。

宮古諸島においては、宮古島(小浜、1976; 小浜・砂川、1981; 小浜・小浜、2020)、池間島(小浜、1976; 小浜・小浜、2020)、伊良部島(小浜、1994; 2016b)、多良間島(杉村・岡崎、2001; 青柳、2018)、水納島(小浜・砂川、2014)から記録がある。本種は宮古諸島に定着していると考えられる。

20. ホソミシオカラトンボ *Orthetrum luzonicum* (Brauer, 1868)

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 7. VII. 2013. 更竹, (S); 2♂, 30. VII. 2014. 崎田川, (K); 1♂1♀, 24. IX. 2014. 崎田川, (K); 1♂1♀, 24. IX. 2014. 崎田川, (比嘉正一); 1♂, 23. X. 2014. 洲鎌, (K); 1♂, 23. X. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 23. X. 2014. 崎田川, (K); 1♂, 19. V. 2016. 大野山林, (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 11. XI. 2012. 福山; 5exs. 24. IX. 2014. 崎田川; 2exs. 18. III. 2015. 崎田川; 4exs. 19. V. 2016. 大野山林; 1ex. 8. X. 2016. 高腰城跡.

宮古諸島においては、宮古島(小浜、1976; 小浜・砂川、1981)と池間島(小浜・仲地、2017)で確認されている。ただし、池間島では一度目撃されただけで、同島に定着している

か不明である。

宮古島では産地が限られており、沖縄県版レッドデータブックでは「絶滅のおそれのある地域個体群（宮古島）」とされている（焼田、2017）。

21. コフキショウジョウトンボ *Orthetrum pruinosum neglectum* (Rambur, 1842)

[撮影データ]

宮古島：1ex. 14. V. 2016. 大野山林. 仲地邦博撮影

宮古諸島新記録。上記の撮影記録は既に報告している（小浜・仲地、2016）。

本種は八重山諸島以南に分布し、宮古諸島からは知られていなかった。2016年に仲地邦博氏によって、宮古島から確認された。宮古島では1度だけ確認されており、八重山諸島からの飛来と考えられる。

22. ハラボソトンボ *Orthetrum sabina sabina* (Drury, 1770)

[採集標本データ]

宮古島：2♂, 29. VIII. 2014. 上地, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (K); 1♂, 31. VIII. 2014. 福山, (S); 1♂, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♂, 24. IX. 2014. いこいの森, (K); 1♀, 23. X. 2014. 崎田川, (K); 1♀, 17. III. 2015. いこいの森, (K).

来間島：1♂, 12. X. 2014 (K); 1♂, 21. V. 2016 (K).

伊良部島：1♀, 28. VII. 2014. 佐和田, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K).

多良間島：1♂, 17. VII. 2014. 長嶺, (K); 1♂, 17. VII. 2014. 長嶺, (S); 2exs. 16. VII. 2013, 長嶺.

水納島：1♂, 9. VI. 2013. (S).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 9. III. 2013. 大野山林; 6exs. 26. IV. 2013. 大野山林; 1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 4exs. 5. VII. 2013. 大野山林; 1ex. 30. VII. 2014. 福山; 1ex. 30. VII. 2014. 崎田川; 9exs. 29. VIII. 2014. 上地; 2exs. 31. VIII. 2014. 福山; 1ex. 24. IX. 2014. いこいの森; 2exs. 25. IX. 2014. 福山; 2exs. 23. X. 2014. いこいの森; 1ex. 22. IV. 2015. 上地; 1ex. 22. IV. 2015. 新城; 2exs. 23. IV. 2015. 保良; 3exs. 24. IV. 2015. 添道; 1ex. 12. V. 2015. 加治道; 8exs. 12. V. 2015. いこいの森; 3exs. 19. V. 2016. 大野山林; 3exs. 19. V. 2016. 添道; 4exs. 12. VII. 2016. 大野山林; 1ex. 8. X. 2016. 高腰城跡; 8exs. 9. X. 2016. 野原; 1ex. 9. X. 2016. 宮原; 2exs. 9. X. 2016. 添道; 3exs. 9. X. 2016. 福山.

池間島：2exs. 10. XI. 2012; 3exs. 28. VII. 2014; 5exs. 20. V. 2016.

来間島：1ex. 29. VIII. 2014.

伊良部島：6exs. 13. VII. 2016.

多良間島：1ex. 16. III. 2013. 高穴南；1ex. 17. III. 2013. 宮古市の森。

水納島の採集データについては、水納島新記録として既に報告している（小浜・砂川、2014）。

宮古諸島においては、宮古島（松井、1962；東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；岸、1986；小浜・佐々木、2013）、来間島（小浜、1976）、伊良部島（小浜、1994）、多良間島（小浜、1976）から記録されていた。宮古島では周年成虫が見られる（小浜・小浜、2020）。

23. ウスバキトンボ *Pantala flavescens* (Fabricius, 1798)

[採集標本データ]

宮古島：1♀, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S).

池間島：1♂, 29. VII. 2014. (K).

来間島：1♀, 21. V. 2012. (S)；1♀, 29. VIII. 2014. (K).

下地島：2♀, 27. VII. 2014. (K)；1♀, 23. VIII. 2016. (S).

多良間島：1♂, 16. VII. 2014. 仲筋, (K).

水納島：1♂, 9. VI. 2013. (K).

[目撃データ]

宮古島：2exs. 11. XI. 2012. 大野山林；2exs. 26. IV. 2013. 大野山林；1ex. 12. VI. 2014. 狩俣；8exs. 13. VI. 2014. 友利；2exs. 24. IX. 2014. いこいの森；1ex. 25. IX. 2014. 添道；4exs. 25. IX. 2014. 真謝；1ex. 23. IV. 2015. 東平安名崎；1ex. 13. V. 2015. 西平安名崎；1ex. 22. V. 2016. いこいの森；1ex. 12. VII. 2016. 大野山林；1ex. 8. X. 2016. 高腰城跡；13exs. 9. X. 2016. 野原；1ex. 9. X. 2016. 福山。

池間島：6exs. 10. XI. 2012；3exs. 20. V. 2016.

来間島：1ex. 21. V. 2016.

伊良部島：32exs. 4. IX. 2015. 佐良浜。

下地島：8exs. 27. VII. 2014.

多良間島：1ex. 16. VII. 2014. 仲筋；1ex. 19. III. 2016. 長嶺；1ex. 19. III. 2016. 仲筋；1ex. 20. III. 2016. 仲筋。

水納島：26exs. 21. III. 2016；78exs. 22. III. 2016.

下地島から新記録。水納島の採集データについては既に報告している（小浜・砂川、2014）。

宮古諸島においては、宮古島（東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；安里・渡辺、1985；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976）、来間島（小浜、1976）、伊良部島（小浜、1994）、多良間島（山本、1975；小浜、1976）、水納島（小浜、1976）から記録されていた。宮古島では周年成虫が見られる（小浜・小浜、2020）。

24. ベッコウチョウトンボ *Rhyothemis variegata imperatrix* Selys, 1887

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 7. VII. 2013. 更竹, (S); 1♂, 16. IX. 2014. 洲鎌, (S); 1♀, 24. IX. 2014. いこいの森, (K).

池間島：4♀, 28. VII. 2014. (K); 2♀, 29. VII. 2014. (K); 1♂, 20. V. 2016. (K).

伊良部島：1♀, 28. VII. 2014. 佐和田, (K).

[目撃データ]

宮古島：4exs. 26. IV. 2013. 大野山林; 1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 1ex. 5. VII. 2013. 大野山林; 1ex. 12. VI. 2014. 狩俣; 1ex. 31. VIII. 2014. 福山; 3exs. 24. IX. 2014. いこいの森; 1ex. 23. IV. 2015. 保良; 6exs. 13. V. 2015. 大野山林; 3exs. 19. V. 2016. 添道; 1ex. 9. X. 2016. 添道.

池間島：5exs. 28. VII. 2014; 17exs. 20. V. 2016.

伊良部島：1ex. 28. VII. 2014. 佐和田; 1ex. 5. IX. 2015. 佐和田; 1ex. 13. VII. 2016. 牧山.

宮古諸島においては、宮古島（東、1975；小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、池間島（小浜、1976；小浜・佐々木、2013）、伊良部島（小浜、1994；2016b）から記録がある。

25. オナガアカネ *Sympetrum cordulegaster* (Selys, 1883)

今回の調査においては得られていない。

宮古島から1982年9月に1♂が採集されており（小浜、1983）、これが宮古諸島における唯一の記録である。本種は、秋にユーラシア大陸から渡ってくる、飛来性のアカトンボである（渡辺ら、2007）。

26. スナアカネ *Sympetrum fonscolombii* (Selys, 1840)

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 19. X. 2014. いこいの森, (S); 2♂1♀, 24. X. 2014. いこいの森, (K); 2♂, 24. X. 2014. いこいの森, (S); 1♂, 6. XI. 2014. 洲鎌, (S).

池間島：7♂1♀, 24. X. 2014. (K); 4♂, 24. X. 2014. (S).

[目撃データ]

宮古島：2exs. 23. X. 2014. いこいの森; 4exs. 24. X. 2014. いこいの森.

池間島：14exs. 24. X. 2014.

宮古島と池間島における標本データについては別に報告している（小浜・砂川、2018）。

宮古諸島においては、宮古島（Kohama, 1978；小浜・砂川、2018）と池間島（小浜・砂川、2018；2019）から、それぞれ2回ずつ記録されている。

本種は、主に秋に沿岸部を中心に国内各地で確認される、飛来性のアカトンボである（尾園ら、2012）。沖縄地方でも各地で採集されており、近年その記録は増加傾向にある（小浜・山崎、2018）。なお、国内で本種が最初に採集・確認されたのは宮古島である（Kohama, 1978）。

27. アメイロトンボ *Tholymis tillarga* (Fabricius, 1798)

[採集標本データ]

宮古島：2♂, 29. VIII. 2014. 上地, (K); 1♂, 24. IX. 2014. 崎田川, (K); 1♂, 22. IV. 2015. 上地, (S); 1♀, 23. IV. 2015. 保良, (K); 1♀, 24. IV. 2015. 保良, (K); 1♀, 14. V. 2015. 与那覇, (K); 1♂, 19. V. 2016. 添道, (K).

池間島：2♂, 28. VII. 2014. (K); 1♂, 29. VII. 2014. (K); 1♂, 30. VIII. 2014. (K); 1♂, 20. V. 2016. (K); 1♀, 9. X. 2016. (K).

[目撃データ]

宮古島：1ex. 5. VII. 2013. 更竹; 6exs. 24. IX. 2014. 崎田川; 1ex. 22. IV. 2015. 上地; 2exs. 14. V. 2015. 与那覇; 7exs. 19. V. 2016. 添道; 1ex. 21. V. 2016. 崎田川.

池間島：5exs. 28. VII. 2014; 4exs. 20. V. 2016; 4exs. 9. X. 2016.

宮古諸島においては、宮古島（小浜、1976；小浜・小浜、2020）と池間島（小浜、1976；小浜・佐々木、2013）から記録されている。黄昏活動性のトンボである。雄は午後3時ごろの明るい時間帯から水辺に現れ、なわばり飛翔を始める。交尾産卵は夕刻の薄暗い時間に活発になる。

28-1. ヒメハネビロトンボ小斑型（コモンヒメハネビロトンボ）*Tramea transmarina euryale* Selys, 1878

[採集標本データ]

宮古島：1♂, 29. VIII. 2014. 大野山林, (K); 1♂, 24. IX. 2014. 嘉手苺, (K); 1♂, 24. X. 2014. いこいの森, (K); 1♂1♀, 14. V. 2015. 与那覇, (K).

来間島：1♂, 29. VIII. 2014. (K); 2♂, 21. V. 2016(K).

伊良部島：1♂, 6. VII. 2013. 佐和田, (K); 1♀, 6. VII. 2013. 牧山, (K); 2♂, 28. VII. 2014. 佐和田, (K); 1♂, 13. VII. 2016. 佐和田, (K). 1♀, 11. VI. 2017. 牧山, (K).

多良間島：2♂, 7. VI. 2013. 西赤地原, (S); 2♂, 16. VII. 2014. 仲筋, (K); 1♀, 16. VII. 2014. 長嶺, (K); 2♂, 16. VII. 2014. 宮古市の森, (K).

水納島：1♂, 9. VI. 2013. (K).

[目撃データ]

宮古島：4exs. 12. VI. 2014. 狩俣; 1ex. 30. VII. 2014. 福山; 2exs. 24. IX. 2014. いこいの森; 1ex. 23. X. 2014. いこいの森; 2exs. 12. V. 2015. いこいの森; 4exs. 13. V. 2015. 大野山

林; 5exs. 14. V. 2015. 与那覇; 1ex. 15. V. 2015. 上比屋.

来間島 : 2exs. 21. V. 2016.

伊良部島 : 2exs. 5. IX. 2015. 牧山; 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田; 1ex. 13. VII. 2016. 佐和田.

多良間島 : 2exs. 16. VII. 2014. 仲筋.

宮古諸島からは、宮古島（小浜、1976；小浜・砂川、1981；小浜・小浜、2020）、来間島（小浜・小浜、2020）、伊良部島（小浜、1994）、下地島（小浜、1994）、多良間島（杉村・岡崎、2001；2002）から記録がある。杉村・岡崎（2001）が多良間島から記録したのは、ナンヨウヒメハネビロトンボであるが、後述のように、ここでは斑紋の小さいタイプ（コモンヒメハネビロトンボ）に含めた。

従来、国内に分布するヒメハネビロトンボは、後翅斑紋の大きさに3亜種に分けられ、それぞれに亜種和名がつけられていた。斑紋が極めて小さいものはコモンヒメハネビロトンボ *Tramea transmarina euryale* Selys, 1878、それよりも斑紋が大きいが、三角室に届かないものはナンヨウヒメハネビロトンボ *Tramea transmarina propinqua* Lieftinck, 1942、そして斑紋が三角室を越えるものはヒメハネビロトンボ *Tramea transmarina yaeyamana* Asahina, 1964とされていた。しかし、これらの斑紋の大きさには変異があり、中間型もあり、亜種を区別しにくい個体もある（小浜、1976；浜田・井上、1985；杉村ら、1999；渡辺ら、2007；尾園ら、2012）。一方で、最近の研究では、ナンヨウヒメハネビロトンボは、ヒメハネビロトンボとは雄副性器などの形態が異なり、またDNA解析でも違いが認められており、ヒメハネビロトンボの亜種ではなく独立種—*Tramea propinqua* Lieftinck, 1942—とされている（杉村ら、1999；尾園ら、2012）。そして、国内でナンヨウハネビロトンボとされていた個体は、真のナンヨウハネビロトンボではなく、ヒメハネビロトンボの斑紋変異と考えられている（尾園ら、2012）。これらのことから、ここでは、コモンヒメハネビロトンボをヒメハネビロトンボ小斑型と呼び、そして、やや斑紋の大きなタイプ（ナンヨウヒメハネビロトンボとされてきた、**propinqua** 型）もヒメハネビロトンボ小斑型に含めた。そしてヒメハネビロトンボと呼ばれる、斑紋の大きなタイプ（発達したタイプ）を八重山型、または八重山亜種と呼ぶことにする。

28-2. ヒメハネビロトンボ八重山亜種 *Tramea transmarina yayeyamana* Asahina, 1964
[採集標本データ]

水納島 : 1♂, 9. VI. 2013. (K).

水納島の採集データについては、水納島新記録として既に報告している（小浜・砂川、2014）。

宮古諸島からは多良間島の記録がある（杉村・岡崎、2001）。八重山諸島の固有亜種とされている（渡辺ら、2007）。

29. ハネビロトンボ *Tramea virginia* (Rambur, 1842)

今回の調査期間中、意外なことに全く見られなかった。ヒメハネビロトンボ小斑型が各島で見られたのとは対照的であった。

宮古諸島においては、宮古島（小浜、1976；小浜・砂川、1981；安里・渡辺、1985；小浜・小浜、2020）と多良間島（青柳、2018）から記録があるが、飛来種で、宮古諸島に定着していない可能性がある。

30. ベニトンボ *Trithemis aurora* (Burmeister, 1839)

今回の調査期間中は見つかっていない。

南方からの飛来種で、2004年4月に宮古島で多数の個体が見つかったが、その後の記録はない。2003年に宮古島に侵入し、一時期繁殖した可能性がある（砂川・小浜、2006）。

本種は、県内では1981年に石垣島で確認され、その後、琉球列島において分布域を北へ広げ、1983年までに沖縄諸島、1986年までに奄美諸島、その後、九州本土でも記録された（砂川・小浜、2006を参照）。

31. オオメトンボ *Zyxomma petiolatum* Rambur, 1842

[目撃データ]

池間島：3exs. 28. VII. 2014.

宮古諸島では、宮古島（小浜・砂川、2018）と池間島（焼田・喜多、2008；小浜・佐々木、2013）から記録されている。池間島には比較的個体数が多く、定着していると考えられる。宮古島で確認されたのは1頭のみで、定着しているのか不明である。

以上のように、2012年から2017年にかけて実施した、宮古諸島におけるトンボ相の調査の結果、4科25種のトンボを採集・目撃し、データを記録した。宮古諸島から過去に記録されているが、今回の調査期間中に確認できなかったのは、アジアイトトンボ、リュウキュウカトリヤンマ、オナガアカネ、ベニトンボ、ハネビロトンボの5種である。その後、2019年に新たにオオハラビロトンボが確認された。これら6種を追加すると、2019年12月現在、宮古諸島から知られるトンボは4科31種となる。ホソミノオカラトンボを除いて、いずれも池や湿地など止水にすむトンボで、河川性のトンボは生息していない。

島ごとにトンボ種数をみると、宮古島から31種、池間島から22種、来間島から6種、伊良部島19種（そのうちムスジイトトンボとリュウキュウギンヤンマは同島新記録）、下地島7種（そのうちオオギンヤンマとウスバキトンボは同島新記録）、多良間島から13種（そのうちヒメトンボは同島新記録）、水納島4種である。大神島からは、これまでのところトンボの記録はない（表1）。

宮古諸島のトンボ31種のうち定着していると考えられるのは、ヒメイトトンボ、アオモンイトトンボ、リュウキュウベニイトトンボ、トビイロヤンマ、リュウキュウギンヤンマ、タイワンウチワヤンマ、コシブトトンボ、アオビタイトンボ、ホソミシオカラトンボ、ベッコウチョウトンボ、アメイロトンボ、オオメトンボなど23種である。ウスバキトンボは、国内では八重山諸島での幼虫の越冬が確認されている（尾園ら、2012）。宮古諸島では幼虫越冬の証拠は得られてないが、周年成虫が見られることから、定着していると考えられる。

アジアイトトンボ、オオギンヤンマ、オナガアカネ、スナアカネは明らかな飛来種である。コフキショウジョウトンボとベニトンボも南方から飛来して来たと推定される。ハネビロトンボは、過去に宮古島からの記録が多い（小浜、1976；小浜・砂川、1981；安里・渡辺、1985；小浜・小浜、2020）が、今回の調査期間中、全く見られなかった。本種は洋上飛来種として知られており（橋本・朝比奈、1969；朝比奈・鶴岡、1970）、宮古島に定着していないようである。

定着種23種のうち、アオビタイトンボ、ヒメキトンボ、ウミアカトンボおよびヒメハネビロトンボ（小斑型）の4種は、もともとは南方からの飛来種（迷トンボ）であったが、1970年代以降に宮古諸島に定着したと推定される。その他に、宮古島に生息している可能性があるのが、最近記録されたオオハラビロトンボである（小浜・仲地、2019）。本種は繁殖地周辺からあまり遠くへ移動しないトンボで、海を越え、飛来してきたとは考えにくい。本種が見つかった場所は、宮古島で最も面積の大きな森である大野山林であった。この森の中に本種が繁殖できる、樹林に囲まれた池・湿地が存在する可能性がある。

ヒメイトトンボは、宮古諸島では宮古島、池間島、伊良部島に生息する。本種は、海岸近くの、多少とも潮の影響があると思われる湿地に生息しているような印象を受ける。一方、同属のコフキヒメイトトンボは、宮古諸島では宮古島のみ分布する。本種は、より内陸側の湿地に多いようである（小浜、2016a）。ヒメイトトンボは、環境省のレッドデータブック2014では準絶滅危惧である（環境省自然環境野生生物課希少種保全推進室編、2015）。しかしながら、前述のように、宮古諸島ではコフキヒメイトトンボの方が、ヒメイトトンボよりも生息地が少ないようである。

宮古諸島で絶滅のおそれがあるのが、湿地にすむ、リュウキュウカトリヤンマ、トビイロヤンマ、ホソミシオカラトンボである。リュウキュウカトリヤンマは、今回の調査では得られていない。本種は、1979年には中添道にある林の中の湿地に多産したが、その産地は畑地造成で消滅した。その他に、大浦周辺にも本種の産地があったが、1980年代後半には畑地造成でその生息地は消失し、個体数が激減したと考えられる。トビイロヤンマは、湿地や水田の減少により、県内各地で個体数が減少している。沖縄県版のレッドデータブックのカテゴ

リーは、「絶滅危惧IB類」である(焼田、2017)。宮古諸島からは、宮古島、池間島、伊良部島、下地島から記録されているが、今回の調査において、本種が確認されたのは池間島のみで、個体数はかなり少なかった。池間島においては、1983年9月にイネ科植物が繁茂した湿地で夥しい数の羽化殻が確認され、羽化成虫も観察されたが、1984年1月には、農地造成のため湿地は埋め立てられ、本種の好適な生息地はその大部分が消失した。宮古島においても、中添道や大浦周辺に本種の好適な生息地があったが、1980年代後半にはそのほとんどが農地造成により消失した。また、伊良部島でも平江に本種の好適な生息地があったが、ここも農地造成で消失した。このようなことから、宮古諸島における本種の個体数は激減したと思われる。宮古島のホソミシオカラトンボは、沖縄県版レッドデータブックの「絶滅のおそれのある地域個体群(宮古島)」として扱われている(焼田、2017)。ホソミシオカラトンボは、すみ場所のえり好みが強く、イネ科植物が茂り、かつ湧水がしみだす湿地や緩やかな流れに生息する。このような環境は宮古島には非常に少ない。確実な産地は2か所で、それぞれ生息場所の面積は小さい。崎田川では、流れの岸のイネ科植物が繁茂する場所に限って見られる。

引用文献

青柳 克(2011) 池間島の水生昆虫類. 琉球の昆虫(35): 95-100.

青柳 克(2018) 多良間島の水生昆虫(トンボ・カメムシ・コウチュウ・ミズメイガ). 琉球の昆虫(42): 117-122.

朝比奈正二郎(1964) 1963年度採集の琉球産蜻蛉類の記録. 昆虫32: 529-534.

朝比奈正二郎・鶴岡保明(1970) 南方定点観測船に飛来した昆虫類 第5報 1968年度の飛来昆虫類. 昆虫38: 318-330.

安里 進・渡辺賢一(1985) 沖縄県のトンボ. 沖縄県のトンボ—安里進トンボコレクション 寄贈目録: 5-28. 名護博物館.

東 清二(1975) 宮古島の昆虫相. 沖縄県立自然公園候補地学術調査報告(宮古群島): 89-12 沖縄県.

枝 重夫(2002) 1998年に大発生したオオギンヤンマの記録の総集と考察. Tombo, Matsumoto 45: 1-6.

浜田 康・井上 清(1985) 日本産トンボ大図鑑 I・II. 364pp. + 371pp. 講談社. 東京.

橋本 碩・朝比奈正二郎(1969) 南方定点観測船に飛来した昆虫類 第4報 特に蜻蛉類に関する観察. 昆虫37: 305-319.

環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室(編)(2015) レッドデータブック2014—日

- 本の絶滅のおそれのある野生生物.
- 岸 一弘 (1986) 安達薫氏採集の南西諸島のトンボ. 神奈川虫報(79):23-24.
- 小浜継雄 (1976) 宮古群島のトンボ類. Tombo, Tokyo 19(1-4): 17-20.
- Kohama, T. (1978) Three interesting *Sympetrum* species from the Sakishima Islands, the Ryukyus, Japan (Anisoptera: Libellulidae). Notulae Odonatologicae 1(2): 23-24.
- 小浜継雄 (1983) 宮古島未記録のトンボ2種. Tombo, Tokyo 26(1-4): 30.
- 小浜継雄 (1986) 宮古島から未記録のトンボ2種. 月刊むし(190): 6-7.
- 小浜継雄 (1994) 伊良部島・下地島のトンボ類. Tombo, Tokyo 37:45-46.
- 小浜継雄 (2015) 沖縄のアジイトトンボはどこからやってくるのかー2011年秋のアジイトトンボの飛来源推定. 琉球の昆虫(39): 60-62.
- 小浜継雄 (2016a) 沖縄諸島伊是名島のトンボ2015年の記録. Aeschna (52): 61-64.
- 小浜継雄 (2016b) 宮古諸島伊良部島のトンボ1995年8月の記録. 琉球の昆虫(40): 3.
- 小浜継雄 (2019) 沖縄島でアジイトトンボを3月に採集. 琉球の昆虫(43): 53.
- 小浜継雄・小浜洋子 (2020) 宮古諸島のトンボの記録 (1982年~1987年). 琉球の昆虫(44): 投稿中.
- 小浜継雄・仲地邦博 (2016) 宮古島でコフキショウジョウトンボを確認. Pulex (95): 697.
- 小浜継雄・仲地邦博 (2017) 宮古諸島池間島でホソミシオカラトンボを初確認. Pulex (96): 721.
- 小浜継雄・仲地邦博 (2019) 宮古島でオオハラビロトンボを初確認. Pulex (98): 789-790.
- 小浜継雄・佐々木健志 (2013) 宮古諸島池間島のトンボ・直翅類. 宮古島市総合博物館紀要 (17): 76-80.
- 小浜継雄・砂川博秋 (1981) 宮古島のトンボ類. 琉球の昆虫(5): 62-64.
- 小浜継雄・砂川博秋 (2014) 宮古諸島水納島のトンボ. 宮古島市総合博物館紀要(18): 86-87.
- 小浜継雄・砂川博秋 (2016) 沖縄県伊良部島におけるヒメキトンボとアオビタイトンボの採集記録. Aeschna (52): 68.
- 小浜継雄・砂川博秋 (2017) 宮古島初記録のオオメトンボ. 月刊むし(558): 52.
- 小浜継雄・砂川博秋(2018)宮古島と池間島のスナアカネ2014年の記録. 月刊むし(574): 10-11.
- 小浜継雄・砂川博秋 (2019) 宮古諸島池間島におけるスナアカネの記録 (2019年). Pulex(98): 790-791.
- 小浜継雄・山崎仁也 (2018) 伊平屋島のスナアカネの採集記録. Aeschna (54): 32.
- 松井一郎 (1962) 沖縄の蜻蛉 (III) -宮古・久米・与那国の蜻蛉-. あきつ10(3): 49.
- 松木和雄 (1979) 水沢清行氏採集の宮古島のトンボ3種. 神奈川虫報(56): 9.

- Oguma, K. (1926) The Japanese Aeschnidae. *Insecta Matsumurana* 1(2): 78-100.
- 長田 勝・小濱継雄 (2011) 季節的移動と考えられる沖縄の虫. 月刊むし(490): 22-23.
- 尾園 暁・川島逸郎・二橋 亮 (2012) 日本のトンボ. 531pp. 文一総合出版. 東京.
- 杉村光俊・岡崎幹人 (2001) 多良間島のトンボ. *昆虫と自然* 36(6): 44.
- 杉村光俊・岡崎幹人 (2002) 南西諸島のトンボ類における記録. *昆虫と自然* 37(5): 22.
- 杉村光俊・石田昇三・小島圭三・石田勝義・青木典司 (1999) 原色日本トンボ幼虫・成虫大図鑑. 917pp. 北海道大学図書刊行会. 札幌.
- 砂川博秋・小浜継雄 (2003) 宮古島および池間島におけるヒメキトンボの記録. 月刊むし(394):22-23.
- 砂川博秋・小浜継雄 (2006) 宮古島でベニトンボを採集. 月刊むし(430): 6-7.
- 上田 丞(1964) 琉球列島採集蜻蛉類目録. 宇都宮短期大学琉球学術調査報告第1集: 149-151.
- 渡辺賢一・焼田理一郎・小浜継雄・尾園 暁 (2007) 沖縄のトンボ図鑑. 198pp. ミナミヤンマ・クラブ. 東京.
- 焼田理一郎 (2017) トビイロヤンマ、ホソミシオカラトンボ. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物 第3版(動物編)ーレッドデータおきなわ: 362-363, 392. 沖縄県環境部自然保護課.
- 焼田理一郎・喜多英人 (2008) 池間島から未記録のトンボ. *琉球の昆虫*(32): 22.
- 山本一裕 (1975) 楨原寛氏の琉球諸島のトンボの採集品. *Satsuma* (69): 19-20.

表1 宮古諸島のトンボ分布表 (2019年12月末現在)

○採集記録 ▲目撃記録 (撮影データあり) △目撃記録 (撮影データなし)

種名	島名	諸島計	宮古島	池間島	大神島	来間島	伊良部島	下地島	多良間島	水納島
種数合計		31	31	22	0	6	19	7	13	4
I. イトトンボ科 (種数)		(6)	(6)	(5)	(0)	(1)	(5)	(2)	(3)	(0)
1. コフキヒメイトトンボ		○	○							
2. ヒメイトトンボ		○	○	○			○			
3. リュウキュウベニイトトンボ		○	○	○			○		○	
4. アジアイトトンボ		○	○	○			○	○		
5. アオモンイトトンボ		○	○	○		○	○	○	○	
6. ムスジイトトンボ		○	○	○			△		○	
II. ヤンマ科 (種数)		(5)	(5)	(3)	(0)	(0)	(3)	(3)	(2)	(0)
7. トビイロヤンマ		○	○	○			○	○		
8. オオギンヤンマ		○	○	○				○	○	
9. リュウキュウギンヤンマ		○	○				○	○		
10. ギンヤンマ		○	○	○			○		○	
11. リュウキュウカトリヤンマ		○	○							
III. サナエトンボ科 (種数)		(1)	(1)	(1)	(0)	(0)	(1)	(0)	(1)	(0)
12. タイワンウチワヤンマ		○	○	○			○		○	
IV. トンボ科 (種数)		(19)	(19)	(13)	(0)	(5)	(10)	(2)	(7)	(4)
13. コシブトトンボ		○	○	○			○			
14. アオビタイトンボ		○	○	○			○			
15. ヒメキトンボ		○	○	○			○			
16. ショウジョウトンボ		○	○	○		○	○		○	
17. ヒメトンボ		○	○	○		○	○		○	
18. オオハラビロトンボ		▲	▲							
19. ウミアカトンボ		○	○	○			○		○	○
20. ホソミシオカラトンボ		○	○	▲						
21. コフキショウジョウトンボ		▲	▲							
22. ハラボソトンボ		○	○	○		○	○		○	○
23. ウ斯巴キトンボ		○	○	○		○	○	○	○	○
24. ベッコウチョウトンボ		○	○	○			○			
25. オナガアカネ		○	○							
26. スナアカネ		○	○	○						
27. アメイロトンボ		○	○	○						
28. ヒメハネビロトンボ (小斑型) *		○	○			○	○	○	○	
ヒメハネビロトンボ (八重山亜種) *		○							○	○
29. ハネビロトンボ		○	○						○	
30. ベニトンボ		○	○							
31. オオメトンボ		○	○	○						

*本文参照

